



Chile

会員からのメッセージ

●一昨年8月にチリ駐在が始まりはや2年。チリは南北に約4,300km、東西の幅が約180kmと地球上、ほかに例をみない細長く特殊な国土を有する国である。「神が天地創造の最後の日の余ったパーツを寄せ集めて作った国」と評するほどありとあらゆる自然、気候、そして風景が凝縮された国。そんな地球の裏側の国で日夜業務に奮闘中。稲門会活動はゴルフ、宴会が中心ですが、先輩・後輩の垣根を越えた異国の地で酌み交わす校友との酒は格別の味。早稲田大学万歳！チリ稲門会万歳！！

神谷哲也(副会長、1987年商学)

●2012年4月より駐在しております。南北に長いチリの魅力は大自然もさることながら、何か行事があれば(とくにサッカー)、いたるところで「Vamos todos! (皆で一緒に頑張ろう)」といった言葉が叫ばれるなど、「和」を大切にしている国民性があります。チリ稲門会もこういった「和」を大切に、会社や年齢等の垣根を越えた交流を続けております。

大自然にチリワイン、そして「和」を大切にしているチリ人。南米を訪問する機会があれば、是非チリに注目してください。赤坂英佑(青年部会長、2007年法学)

●2010年10月よりサンティアゴでの駐在員生活を始め、早くも2年が経過いたしました。日常を通じ毎年新しい発見と驚きがあり、チリという国の面白さを日々感じております。

美しく雄大な自然のほか、食材の美味しさがチリの魅力です。とくにMariscos(魚介類)は「安く」、「美味しく」、お肉も和牛にアルゼンチン牛と魅力的な種類が揃っています。チリ稲門会の活動もチリの魅力の一つとして励んでいきたいと思っております。

松田直也(2004年政経)

チリ稲門会の人びと

People

●駐在生活は約1年半になります。かつて抱いていた南米のイメージは、サンティアゴ新市街の整然とした高層ビルや、街を行き交う高級車を目にしすぐに覆されました。大きな貧富の差はありますが、全体としてチリ経済は堅調に発展しているように思います。また、毎週のようにデモ行進が行われるなど(ときに暴徒化して問題になりますが)、政治への参加意識が非常に高いことを実感します。

発展し変わりゆくチリでの生活は公私ともども刺激的ですが、チリ稲門会の活動も早稲田魂を呼び覚ましてくれる駐在生活の貴重なエネルギー源となっています。

梶原清伸(早慶戦対策委員長、2001年政経)



アンデス返照



チリ大統領官邸—モネダ宮殿

●2010年4月より国立天文台の事務担当として赴任しました。日々天文学者に囲まれながら、チリ北部、アタカマ高地で行われている、「アルマ(ALMA)望遠鏡計画」という天文学プロジェクトの裏方を担っています。

アルマ望遠鏡計画は標高約5000mの高地にパラボラアンテナ66台を組み合わせた1つの巨大電波望遠鏡を建設するもので、完成すると世界最高の解像度の天体電波画像を得られるようになります。日本と台湾・北アメリカ・ヨーロッパ・チリの各国

による国際プロジェクトで、直径12mのアンテナ4台と直径7mのアンテナ12台の製造を日本が担当しています。天文学の分野でもチリに注目です！

山本真一(2002年政経)



夜のアルマ山頂施設と南十字星(画像提供:国立天文台)

チリ稲門会について

About

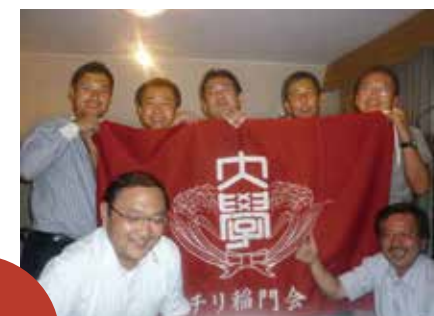
伝統を誇る海外稲門会が多いなか、設立(2008年12月)から4年の若い稲門会です。

近年のチリの経済発展や資源開発ブームに後押しされ駐在員が増えた結果、当初はわずか11名だったメンバーも現在は22名に達しました。これら現役会員のほか、すでにチリを離れたOB・OGを含めると会員は40名以上にもなります。発展著しい新興国の若い稲門会らしく、現会員の半数以上が2000年代以降の卒業生で、年齢構成も若い稲門会です。

チリ稲門会の主な活動は、懇親会、三田会とのゴルフ対抗戦とそれに向けた練習会など。

会員の多くは首都サンティアゴの在住ですが、北部の鉱山や南部の養殖場から参加している会員もいます。およそ2か月に1度開催される懇親会には、サンティアゴ在住の会員に加え、そうした地方からの会員も集い、毎回大きな盛り上がりを見せております。

佐藤慎太郎(政調会長、2000年政経)



チリの魅力

Charm

チリの魅力といえば、やはり3Wを忘れてはいけません。

①Wine 最近では日本でもだいふ知名度が上がってきたチリワイン。その魅力はやはり安くて美味しい!というところではないでしょうか(もちろん、超高級ワインもありますが)。赤は味のしっかりしたCabernet Sauvignonに、チリにしかない(欧州では絶滅してしまった)品種でさっぱり飲みやすいCarmenereなどがあり、白はピリッと美味しいChardonnayにフルーティーなSauvignon Blancが有名です。リーズナブルなワインと一緒にボリュームのある肉料理、または新鮮で豊富な魚介類を堪能できるのはチリ在住の幸せです。

②Weather 南北に細長いチリでは、各地に特色があります。北はアタカマ砂漠に代表される砂漠地帯、南は氷河も見られるパタゴニア地方から南極まで、本当にさまざまな顔をみせてくれます。首都サンティアゴは日本と同じく四季があり、冬は氷点下まで気温が下がることもあるものの(年に数日ですが)、夏はカラッと晴れた空の下、バーベキューなどアウトドアで楽しむのが最高です。

最後に③Women 昔から美人の多い国として有名なチリ。さて、真相は? これは是非、当地に訪れて、皆さまの目でお確かめください!

関根優輔(幹事長、2004年商学)

会長メッセージ

チリを「チリビーンズ」や「チリコンカルネ」の本場と勘違いしている人が多い。否定しても、国の形が細長いトウガラシに似ていると食いがたたりする。チリ人は辛味に極めて弱い人たちだ。インカ帝国が進入してきたころ、現在のサンティアゴ地方で有力だった部族の酋長が「チレ」と呼ばれていたのが国名の由来といわれるが、諸説あるらしい(『チリの歴史—世界最長の国を歩んだ人びと』稲門先輩の故山本雅俊さん訳)。

旧大陸からみれば世界の果てにあって、欧州文明が入ってきたのも南米では遅い部類だが、

太平洋時代になって勤勉な国民性や鉱物資源に恵まれたこともあり、南米初のOECD加盟国となるに至った。FTA締結やTPP協議には極めて積極的で、同じく自由貿易を国是とする日本にはまねのできない身軽さだ。

チリ人の適度なラテン気質は日本人にも親しみやすく、豊かな自然は起伏に富みフロンティアも多い。これからも若い稲門諸兄や、一仕事終了した熟年OB・OGの冒険心をくすぐる魅力的な国であり続けるだろう。

会長・松谷正太郎(1981年商学)